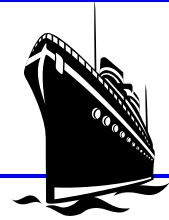


MSI Marine News

トピックス

●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)



ブラジル海洋資源開発プロジェクト獲得に向けた日本の取組

<はじめに>

世界では、人口増加や経済発展に伴い、石油・天然ガスなどのエネルギー需要が年々増加しております。それを受け、海洋資源開発に用いられる構造物・船舶の市場規模は、2020年には2010年の3倍となる約11兆円に達する見込みです。

また、日本の排他的経済水域（EEZ）にメタンハイドレードなどの海洋資源が大量に存在することが確認されており、その開発技術の確立が課題となっていることから、日本にとっては、①海洋産業の振興と利益創出 ②EEZ開発を自国で行う技術の確立につながるという面で、海洋資源開発市場を取り込む意義は大きいと考えられます。

一方、海洋構造物の建造市場において日本は後発国であり、市場における存在感を高めるため実績を積み重ねていく必要があります。そこで、さらなる資源開発が進むブラジルにおいて日本政府と企業が一体となって取組を推進しております。

1. ブラジル市場について

欧米系のオイルメジャーの支配が比較的少なく、ブラジルの大手石油会社である PETROLEO BRASILEIRO S. A. (略称：Petrobras) が開発主体（全体統括・開発権益保持者）となっております。

2. 両国の協力関係

日本政府はブラジル政府との間で、2012年5月に「海洋開発・海事分野における協力覚書」を締結、それに基づき情報・意見交換のための官民合同ラウンドテーブルを年1回開催しております。

3. 現地造船所への進出

日本企業がブラジルの造船所に出資・技術提供する例が増えております。

- 川崎重工業(株)がブラジルの新興造船会社 ESTALEIRO ENSEADA DO PARAGUAÇU S. A. (現 ENSEADA INDUSTRIA NAVAL S. A.)に出資。
- (株)IHI/JMU(株)/日揮(株)が共同でブラジルの造船所 ESTALEIRO ATLANTICO SUL S. A.に出資。
- 三菱重工業(株)/今治造船(株)/(株)名村造船所/(株)大島造船所/三菱商事(株)の5社がブラジルの大手造船所 ECOVIX-ENGEVIX CONSTRUCOES OCEANICAS S. A.に出資。

4. 洋上ロジスティックハブ開発への参画

(1) 背景

現在、ブラジルの主要な洋上油田は沖合約100kmの海域にあります。そこに約25,000人の作業者が常駐しており、陸地と油田の間を往復約1,000~2,000人が毎日ヘリコプターで移動しております。しかし、今後開発が進む鉱区は沖合約200~300kmに位置するため、人員や消耗品等の輸送効率化を図る必要があります。

(2) 洋上ロジスティックハブシステムについて

沖合での海洋開発に必要な人員・物資輸送の中継基地および事故・災害に対する緊急対応の拠点として活用可能な大型鋼製浮体(ハブ)をつくり、ハブ&スポーク方式(*)での輸送を行います。



(*) 陸地とハブ間を高速船による大量輸送で、ハブと洋上設備間をヘリコプターによるシャトル輸送で結ぶ方式。

(3) J-DeEP 技術研究組合の設立 (Japan offshore Design and Engineering Platform)

日本の造船産業が有する大型浮体構造物 (メガフロート) や高速船等の建造技術・ノウハウを活かし、洋上ロジスティックハブを開発するため、日本の造船会社・海運会社等 (*) が集結しました。2014 年度までに技術開発・経済性評価・安全性評価等を実施し、2015 年度からの事業化を目指しております。

(*) 同組合は 2013 年 2 月に国土交通省から設立の認可を受けました。組合員は以下のとおりです。

(株)IHI/JMU(株)/三井造船(株)/川崎重工業(株)/三菱重工業(株)/日本郵船(株)/(株)商船三井/
川崎汽船(株)/(独)海上技術安全研究所/(一財)日本海事協会

<おわりに>

官民一体となって海洋資源開発に携わることにより、同市場における日本の存在感向上・受注拡大が図れるだけでなく、造船所にノウハウが蓄積されることで、自国技術による E E Z 開発にも繋がると期待されます。

以 上

<参考文献一覧>

国土交通省ホームページ

<http://www.mlit.go.jp/>

海洋政策研究財団ホームページ

<http://www.sof.or.jp/jp/index.php>